

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
ECC国際外語専門学校		昭和59年2月20日	瀧山淳一	〒 530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (電話) 06-6311-1446				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人山口学園		昭和58年11月22日	酒元 英二	〒 530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (電話) 06-6366-1440				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	語学ビジネス専門課程	こども教育研究	-	平成28(2016)年度	平成28(2016)年度			
学科の目的	<p>本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。グローバル社会で活躍できる保育士、幼稚園教諭を要請する。</p>							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	<p>①こども教育業界・保育園・幼稚園での勤務のある講師・専門家による理論と実学教育を通じて、最先端の情報と技術を提供することにより、保育・幼稚園教育・小学校教育の現場が求める即戦力を伴った人材養成教育を行う。 ②授業で得た知識・技能を現場実習で実践することにより、経験力と教育力を高める。 ③英語能力を磨き、英語を使って保育・教育ができる人材となるための実用英語教育を行う。</p>							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,420 単位時間	3,600 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
97人	37人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		9	人				
	■就職希望者数(D)		5	人				
	■就職者数(E)		5	人				
	■地元就職者数(F)		1	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		73	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		56	%				
	■進学者数		3	人				
	■その他		1人					
			(令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)					
■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) 日本保育サービス、アイグラン、登りこども園、わかばみや保育園等						
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 一般社団法人専門職高等教育保証機構 受審年月: 44593 評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://qaphe.com/result/techgraduate/kokusaiecc/kokusaieccyear2021/">https://qaphe.com/result/techgraduate/kokusaiecc/kokusaieccyear2021/</a></p>							
当該学科のホームページURL	<a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/">https://kokusai.ecc.ac.jp/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		3,600 単位時間					
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
		うち必修授業時数		3,420 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		300 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		60 単位時間				
		(B: 単位数による算定)						
		総授業時数		単位				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位				
		うち必修授業時数		単位				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		3人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を設置し関連する企業、団体等との連携体制を強化し、授業科目やカリキュラムの更なる充実をはかる。業界に精通した協会および企業等より委員を選任し、年2回の委員会では以下の事項について協議をし、改善を積極的に実践する。

1. 授業内容・学習成果・進路成果を分析し、改善策を協議する。年2回実施する。学生アンケート結果や授業内容・進路内容・学校生活等の情報をもとに、教育内容の改善を行う。
2. 企業・業界からの新たなニーズや要望を受け入れ、カリキュラムや実習・授業以外のプログラムに組み込めるかを協議し、年間カリキュラム、プログラムに反映させる。そのために、積極的に就職先企業よりモニターリングを行い、職業人として必要な要素や課題の情報収集につとめる。
3. 教職員のスキル(専門知識/技術)と指導力の向上を図るために研修体制を継続的に行うための情報共有の場とする。教職員アンケート(年2回)を実施しその情報を基に、企業研修(インターンシップ)の事前教育、研修期間中、事後教育における企業との連携・調整の改善をおこなう。
4. 教育課程編成委員会で協議された内容を、学内カリキュラム編成委員会で検討し、次年度以降の実際のカリキュラムや学校事業に組み込み、採用できない場合はその背景をまとめ次年度以降の教育課程編成委員会で報告し了解を得る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の①～⑤の流れに沿って編成委員会において、教育課程の改善を図る

- ① 教務課: 教育に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ② 進路指導課: 進路指導に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ③ 第1回教育課程編成委員会: 教務・進路指導の課題を受け、企業・業界の立場から改善策の協議と提案する。
- ④ 学内カリキュラム編成委員会: 教育課程編成委員会での協議内容に基づき審議し実施可能か決定する。
- ⑤ 第2回教育課程編成委員会: 新年度の人材育成目標、カリキュラム改善点等を報告し承認を得る。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
瀧山 淳一	ECC国際外語専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
杉田 典彦	ECC国際外語専門学校 進路指導課責任者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
伊藤 功	ECC国際外語専門学校 教務課	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
新井 寛規	ECC国際外語専門学校 専任教員	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
守屋 美智子	社会福祉法人 都島友の会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
田中 七帆子	株式会社 キンダーキッズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月27日 15:30～17:30

第2回 令和5年2月21日 14:00～16:00

0

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ禍における留学の実施、及び大学との併修との両立についてご意見を頂き、希望選択制として実施する。デミペア留学など、より実践的な留学の導入を図っている。

コロナ禍における実習について、保護者ですら園に入れていない中で実習生が入るということで、実習2週間前からの体調チェック等、徹底した管理をするなど、実習指導系科目の内容に含めるなど対応している。また学童の仕事体験など新たな学びの機会をご提案いただき実行に移していく予定。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

#### 1. 企業等との連携による実習・演習等の目的

- ・業界の実態を理解するために仕組み、内容、最新情報・技術を学生に授業を通じて提供する。
- ・業界での現場体験することにより、接客実戦（経験）力を高める。企業等と連携して実習・演習を行う。

#### 2. 企業等との連携による実習・演習等の運営

- ・企業等との連携による実習・演習等は本校教員と企業等から派遣された担当者が共同して実施する場合と、企業等から提供されたカリキュラム及び教材をもとに本校教員が授業を実施する場合がある。
- ・実施された実習・演習等については教務責任者、コース担任及び教育課程編成委員会で内容を検証し改善を図る。

#### 3. 企業等との連携による実習・演習等の評価

- ・本校教員と企業担当者が共同して実施する場合は、授業の成果に対して企業担当者の評価を基に本校教員が成績評価を行う。
- ・カリキュラム等を提供されて実施する場合は、企業等の成績評価規程に従って本校教員が成績評価を行う。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

提携する保育園等の施設において、コース担当、及び専任教員が実習実施に向けて実習園、施設担当者、園長・責任者等から実習の方針、方法、内容などについて研修を受ける予定である。また事前、事後のカリキュラム内容、授業内容、進行に関して助言を受ける。特に実習前において、実習にあたっての心得、姿勢など、現場の視点からの率直な指導を頂く。同時に各園、施設の最新事業についての知識を教授頂き、業界動向の更新、及びその流れに沿ったカリキュラム、指導内容へとつなげていく。

### (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習 I (施設)	提携する児童養護施設で、10日間の実習を行う。児童養護施設の事情、社会的背景等を学ぶとともに、生活をともにしながら、こども達を指導できる力を養う。	社会福祉法人博愛社
教育実習指導(幼稚園) II	教育実習(幼稚園)に向け、学生達が保育事情の最新知識を学び、こども達を保育、指導できる力を身に付ける	社会福祉法人恭生会

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。

##### 1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的

教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。

##### 2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営

研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせ実施する。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	保育現場におけるICT利活用と業務負担軽減について、第3回幼児教育と保育の情報化展	連携企業等:	厚生労働省
期間:	令和4年8月5日(金)	対象:	教職員
内容	現在進んでいる保育現場でのICTの活用について、保育の質の向上に資する活用方法について事例を学ぶ、またICTによる業務支援を通じた業務負担軽減策について学ぶ。		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生理解を基盤としたクラス経営のための「Q-U心理検査の活用」	連携企業等:	一般財団法人 応用教育研究所
期間:	令和4年12月19日(金)	対象:	教職員
内容	Hyper-QUを活用したクラス運営方法や個別支援を学ぶ		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	保育士のキャリアアップセミナー	連携企業等:	(株)保育博実行委員会
期間:	2023年7月19日(水)	対象:	教職員
内容	保育士として働くだけでなく、資格取得することで選択肢が広がることを学び、学生へのキャリアデザインに役立てる。		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	コーチング研修	連携企業等:	株式会社図書文化社
期間:	令和5年12月15日(金)	対象:	教職員
内容	コーチングを活用した学生支援について学ぶ		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。

(学校関係者評価)

第11条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会(以下「関係者委員会」という。)

に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

(関係者委員会の構成)

第12条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。

(1) 関連業界等関係者 2名以上 (2) 卒業生 1名 (3) 保護者または地域関係者 1名 (4) その他校長が必要と認める者1名

2 委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く。

2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第14条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。

(学校関係者評価の評価結果)

第15条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>





5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。

連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、その他の諸活動に関する計画 例: 学校安全・保健対策等
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、取容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等)、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定、資格取得、検定試験合格等の実績卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3) 教職員	教職員数(職名別)教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等の取り組み状況、就職支援等への取り組み支援企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納入時期)活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方針
(10) 国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況、外国の学校等との交流状況
(11) その他	学則、学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self\\_evaluation/](https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/)

公表時期: 令和5年7月31日









			○	TOEIC1(2023) I B	TOEIC Listening & Reading 対策を通して英語を通じた一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	TOEIC1(2023) I A	TOEIC Listening & Reading 対策を通して英語を通じた一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	2/前	90	6	○				○	○	○		
			○	TOEIC2(2023) I B	TOEIC Listening & Reading 対策を通して英語を通じた一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	TOEIC2(2023) I A	TOEIC Listening & Reading 対策を通して英語を通じた一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	2/前	90	6	○				○	○	○		
			○	TOEIC3(2023) I B	TOEIC Listening & Reading 対策を通して英語を通じた一般的な業務遂行に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	Intensive English Studies1(2023R) I A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「副発力」対話力を備えた英語話者になることを目指します。	2/前	90	6	○				○	○	○		
			○	Intensive English Studies2(2023R) I B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「副発力」対話力を備えた英語話者になることを目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	英検1(2023R) I A	進路実現のための検定資格取得を目指します。また、英検準2級レベルの問題を使用し、「日常生活に必要な英語を理解し、使用できる力」を身に付けることを目指します。	2/前	90	6	○				○	○	○		
			○	英検1(2023R) I B	進路実現のための検定資格取得を目指します。また、英検準2級レベルの問題を使用し、「日常生活に必要な英語を理解し、使用できる力」を身に付けることを目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	英検2(2023R) I A	進路実現のための検定資格取得を目指します。また、英検2級レベルの問題を使用し、「日常生活に必要な英語を理解し、使用できる力」を身に付けることを目指します。	2/前	90	6	○				○	○	○		
			○	英検2(2023R) I B	進路実現のための検定資格取得を目指します。また、英検2級レベルの問題を使用し、「日常生活に必要な英語を理解し、使用できる力」を身に付けることを目指します。	2/後	90	6	○				○	○	○		
			○	(H)保育の心理学ⅢA	主に0～6歳の子どもの運動・認知・社会性・基本的な生活習慣などの発達の違いについて理解する。さらに発達に遅れや障りのある子どもの特徴について学習を進める。また、保育にまつわる事例を通してその子どもおよび保護者にどう支援すればよいか、事例を通して自ら考える力を養う。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)教育方法論ⅢA	この授業では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力をどのように学校教育において育成するのかを考察することが目的である。そのために、これまでの教育方法の変遷を踏まえ、新たな授業構成や授業展開及び情報機器を含めた教材の活用方法について基礎的理論を理解する。また、それを授業においてどのように実践・能力の育成に結びつけていのかを実践的に考察する。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)国語ⅠⅢA	本講義は、幼児・児童のこころの発達を助けたり、小学校の国語科の指導を行ったりするための基礎知識を学ぶとともに、国語への意識を高めることを目的とする。小学校での国語教育を念頭に置き、4つの柱である「聞く」「話す」「読む」「書く」に関する課題をアクティブにしつつ、自己の国語力を確認し整理しながら、新たな創作ができる技術や方法を学ぶ。言語表現の実際を体験して相互理解を図る。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)算数ⅢA	この授業では、小学校算数という教科の特性を知り、主要な単元に関する教材研究を通して、指導にあたっての指針を明確にできるようにすることを目的とする。そのためには、まず、小学校算数における5領域の主要な学習内容をピックアップし、その内容の理解及び指導のポイントを整理することから始める。その上で、実際に教材研究を行い、その発表等を通して算数の指導内容に対する理解を深めるとともに、教材研究の方法を理解できるようにするものである。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)社会ⅢA	社会科教育の基礎から、方法原理、評価の理論、授業作り、学習指導方法といった理論的な側面について、演習的要素を取り入れながら学んでいきます。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)理科ⅢA	小学校理科の内容をエネルギー(物理)、粒子(化学)、生命(生物)、地球(地学)にわけ、それぞれの実験・観察・調査・取組などの基礎的知識および技能を身に付ける。さらに、実験や観察の結果を考察することで、自然を愛する心構えを育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を、問題解決の能力を養う。また、理科の概念把握には命題、ストリンク、知的技能、運動技能、イメージ、エピソード、メタ認知の7つの要素の重要性を認識し、これらの要素を考慮しながら教材研究する姿勢を身に付ける。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	(H)生徒指導・進路指導ⅢA	本授業は、「生徒指導の意義と役割」すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携もあめ対応の切り方などを中心に学習を進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校現場や学校間の連携の重要性について理解を深めながら進める。進路指導においては、学校で学ぶことと社会との接点を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育む「進路指導とキャリア教育」を目標として、幼児・児童への指導法の理解を深めさせ、演習を通して幼児・児童を対象としたレッスンをより総合的な指導力の習得を図ります。	3/前	30	2	○				○		○	○	
			○	教育社会学ⅢA	教育は、個に応じるのではなく社会的な目標に向けて機能するものである。近年課題となつてい問題解決能力の向上は、社会と個人という関係性の基、いかに自身の課題を双方納得のもと行うことにはならない。学歴、構造、機能、ジェンダー、道徳的社会的構築、青年文化など、社会と個人の関係に関する課題を自ら着目し、どのように社会教育を行うのかを考える科目である。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	教育実習指導(幼稚園)ⅢA	教育実習(幼稚園)に向け必要な知識や技術を学ぶための準備授業	3/前	30	2	○				○		○		
			○	キャリアデザイン(KE)ⅢA	保育・教育業界には、現在様々な形態の法人が参入している。とりわけ、株式会社や合同会社の参入は非常に影響が大きい。従来の社会福祉法人やNPO法人などが求める人物像とは大きく異なる事業展開をしている会社も少なくない。本科目は、就職活動の基礎的知識の習得を行い、自身の考えるキャリアプランに即した活動が行えるよう指導するものである。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	Business(2023) II A	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	3/前	60	4	○				○		○		
			○	Film Criticism(2023) II A	In this course students will learn the fundamentals of film criticism and interpretation. Moreover, students will develop an understanding of film as both a reflection of a larger socio-historical construct and as an artistic medium.	3/前	60	4	○				○		○		
			○	短期留学単位ⅢB	海外への短期留学を通して英語力の向上、また多文化への理解を深めます。	3/後	##	26	○				○		○		
			○	General EnglishⅢB	短期留学前後に行う英語授業と、4年次に参加するインターナショナルスクールでのインテンシブの準備授業です。	3/後	60	4	○				○		○		
			○	Intensive English Studies 1/M(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「副発力」対話力を備えた英語話者になることを目指します。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	Intensive English Studies 1/T(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発信ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「副発力」対話力を備えた英語話者になることを目指します。	3/前	30	2	○				○		○		
			○	Business(2023) II B	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	3/後	60	4	○				○		○		
			○	Business Communication(KE)ⅢB	ビジネスに特化したスキルを磨くためのオンライン英会話	3/後	60	4	○				○		○		









			○	Intensive English Studies 2/F(2023) II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	30	2	○												
			○	TOEIC2(2023R) II B	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	4/後	90	6	○												
			○	Intensive English Studies 2/W(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	30	2	○												
			○	Intensive English Studies 2/F(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	30	2	○												
			○	TOEIC3(2023R) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	4/前	90	6	○												
			○	Intensive English Studies 2/W(2023) II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	30	2	○												
			○	Intensive English Studies 3/F(2023) II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	30	2	○												
			○	TOEIC3(2023R) II B	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	4/後	90	6	○												
			○	Intensive English Studies 3/W(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	30	2	○												
			○	Intensive English Studies 3/F(2023) II A	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/前	30	2	○												
			○	Journalism(2023) II A	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	4/前	60	4	○												
			○	Intensive English Studies 3/W(2023) II B	第二言語習得理論に基づき作成された学習システム「ENVISION」という教材を用い、学習初期の段階から自分のことについて考え、やりとりをし、まとまった量での発音ができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の4技能運動型のレッスンをを行い、自分のための表現法を身に付けます。「聴覚力」「対話力」を備えた英語話者になることを目指します。	4/後	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 2/F(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
			○	Journalism(2023) II B	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	4/後	60	4	○												
			○	Contemporary Issues 2/W(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 2/F(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Cultural Anthropology(2023) II A	This course is an introduction to cultural anthropology with an examination of various cultures, tradition, and beliefs around the world.	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 2/W(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 3/F(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
			○	Cultural Anthropology(2023) II B	This course is an introduction to cultural anthropology with an examination of various cultures, tradition, and beliefs around the world.	4/後	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 4/W(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 4/F(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 3/W(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 5/F(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 5/W(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 5/F(2023) II A	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/前	30	2	○												
			○	Contemporary Issues 5/W(2023) II B	当該科目 Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	4/後	30	2	○												
				合計		科目	3600 単位 (単位時間)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 3420時間		1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 228単位を取得すること		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。